

廃棄物減量等審議会 適正処理の維持・向上部会

2011年11月1日

健康センター 4階

乙幡 小日向 木村 後藤 澤藤 島 棚井 土井

前回に引き続き、今回は、分別、収集、有料化を議題とし、現状認識と答申に盛り込みたいことを検討した。

1. 分別については、現在の大分類の 可燃 不燃 粗大 資源 有害 に関しては、概ね、ヨシとするが、「不燃」の名称が誤解を与え、他に適当な名称がないか、検討を要する。また、生ごみの資源化に伴い、資源の中に「食物資源」を追加する。また、小型家電 陶磁器 に付いても収集を考える。
2. 収集については 現在の拠点収集 ステーション方式 集団回収 戸別収集 を基本に、収集間隔特に不燃物は収集日を減らしてもよいのではないかとの意見もあった。
3. 有料化はかなり前の答申では有料化推進となっており、多摩地区市長会でも実施の方向となっている。小平市では検討中だが、検討している中身が市民には見えない。
有料化が減量手段としても資源物の品質低下や学習、啓蒙活動への影響懸念また経済的負担増やす事や落ち葉が堆肥に出来ずごみになるイチョウの木は不要など、環境への影響まで検討することも必要で、いずれにしても、検討の過程や、有料化のメリット、デメリットを整理し、有料化の具体策を見える形で議論をする必要がある。
4. ごみ減量は、市民の学習・啓蒙活動により、ごみになるものを買わない 作らない 意識の高揚と分別リサイクルの推進が、すべての施策に優先される。

以上

記録 後藤